

出雲を国見するコース

ビュースポット(車で片道約80分)

A 宍道湖の朝日



大野町の南端、津ノ森の湖畔は朝日の絶景スポットです。冬場は湖上のはるか伯耆大山から昇る幻想的な朝日。夏は寝仏のかたちに見える嵩山・和久羅山から射してくる後光のような日の出を拝むことができます。

B 十膳山からの展望

この山は大野氏の一族宮倉八郎五郎の城であったと伝えられています。永禄12年(1569)尼子勝久の再興戦のとき、大野氏や大垣氏とともに毛利氏に味方して戦い、毛利軍に貢献しましたが、十膳山城主宮倉右衛門兵衛は尼子勝久に味方しました。真山城の落城後どうしたのか、記録なくその行方がわかりません。雲上遙か出雲地を眺め、戦国の世に、しばし思いを馳せられては如何でしょうか。

C 東村大日堂からの展望

大日堂に手を合わせてふり向けば、遠くは中国山地の山並み、斐伊川の流れ、宍道湖や近くは十膳山の眺望が楽しめます。周辺の高台には整備された圃場が広がり、大野ごぼう・里芋・豆類等々良質な農産物を生産しています。十膳山の彼方に沈む夕日は絶景です。

D 本宮山からの展望

本宮山の標高は279.4mで、NTT関連の施設があります。最近、大野公民館事業として整備され、伯耆大山・三瓶山・宍道湖・斐川平野・中国山地・日本海・隠岐など360度の眺望が楽しめる場所として町内外の人々が散策においでになります。



E 魚瀬の展望台

大野地区南から北進してオノ神峠を通過し、しばらく急峻な県道をくだりますと魚瀬の家並みが見えてきます。バス停付近に展望台が設置されています。それまでの景色は一変し、眼下にはどこまでも青い海が広がり遠くは隠岐の島や眼下には女島などが一望でき、心が洗われるようです。

F 伊勢ヶ滝

魚瀬の展望台を更に海岸に下り、東進しますと女島が間近に見えてきます。更に東に目を向けますと、人をも寄せ付けない断崖絶壁が連続し、絶景に圧倒されます。



大山

日本海



至出雲市街 至松江市街

神社仏閣をたずねるコース

パワースポット(車で片道約70分)

G 大野津神社

出雲國風土記に記載されている古社です。ご祭神は須佐之男命。流れ着いた蛇骨を拝し、雨乞いの神事が行われることも広く知られています。昭和9年7月に伊野・秋鹿・大野で雨乞い神事が行われた記録が残っています。

H 細見神社

本社は上根尾地区の氏神で、ご祭神は大山都見命です。江戸時代の学者は、本社を出雲國風土記記載の「細見社」で当時の「上名(かみみょう=かみねお)の牛鞍大明神、同じく「同下社」を「杉戸大明神」に比定していることから明治になり社名を「細見神社」とされました。

I 高野宮(内神社)

出雲國風土記に記載されている古社で、旧大野郷中に鎮座の四十二社の総本社でした。ご祭神は和加布都主命・下照姫命です。出雲大社、佐太神社の支配を受けない格別の由緒深い神社です。例大祭には、近郷の大人、大野の小学生も参加する相撲大会が奉納され賑わいます。平成25年9月には御鎮座1300年記念事業が挙行されました。

J 草野神社

出雲國風土記に記載されている古社です。草野神社のご祭神は加夜奴比古命、配神は南八幡宮でご祭神は菅田別命です。草野神社の元鎮座地は旧大野村上分社谷でしたが、明治初年、字南の南八幡宮に合祭して草野神社を本体とし、「八幡さん」とよばれ親しまれています。

K 万年山西光寺

天正10年本宮山の城主、大野彦治郎高成が死去したため、人々これを悼み、寺を大野氏居住地の地である現在の所に移転し、慶長3年に移転落成供養が営まれました。これより高成公を当寺の開基として祀りました。今の西光寺は約20年間無住であったが、奥出雲町三沢の臨濟寺より開州大和尚を迎えて妙心寺派に属し、当寺の中興第一世とし、現在の昌子宗賢和尚は十三世です。本尊は阿彌陀如来像で、恵心僧都の作と伝承されています。長沢蘆雪の襖絵(非公開)が特に有名です。

L 正受寺護摩堂(四国八十八ヶ所)

魚瀬の村松元市さんが健康状態の回復を願い、四国巡礼を行い快方に向かった為、大妻喜び御堂を建立し弘法大師を迎え、大正4年7月落成入仏供養を営まれました。本尊は聖観音菩薩です。後に古江の成相寺の徒弟となり元術と称し高野山大師教会支部を設立、住職を拝命されました。信者は広範囲におよび崇敬者多数で、お大師さんとして親しまれていました。現在、正受寺は平成25年に無くなり、護摩堂が残されています。

M 八神神社

古くは八王子権現と称していました。古伝によれば、秀吉が行った朝鮮征伐に従った船乗りさんが、この地に流れ着き、各自の産土神を勧請して八神を祀ったのが起源であるといわれています。ご祭神は5男3女の神であります。この正統を継ぐ8軒は現在17~18代と続いています。漁業の神として地区の人々が崇敬をしています。

自然散策をたのしむコース

ウォーキング

N 本宮山登山コース(徒歩片道約60分)

N-1 土居城跡・古墓群 西光寺の裏山には、大野氏の居館跡で大野氏が滅びた後に治めた武士の居城跡と言われる土居城跡があり、主郭跡と二郭跡があります。土居城跡の途中には昭和44年に発掘された、室町時代以降のものと思われる大野氏歴代の古墓群(五輪塔等)があります。

N-2 東村ごぼう畑 本宮山から東村大日堂付近にかけて、香り・味・食感抜群の大野ごぼうが生産されています。

N-3 東村大日堂 魚瀬の浦に流れ着いた大日如来を本尊として祀ったと言われていいます。大日如来が作物の良くできる肥えた畑を持ってこられたと言われていいます。牛馬の守護仏。毎年2月28日・8月28日には供養、1月5日には「おもつあん」が今も行われています。

N-4 本宮山・城跡 出雲國風土記記載、内神社の本宮があり、中世では大野氏のお城があったところ。昭和34年に旧日本電信電話公社無線中継所の管理道路が出来たので、一般の人でも気軽に訪れることができるようになりました。山頂には郷土出身「小林春岳」揮毫による記念碑が設置されており、平成22年には展望説明板や本宮山説明文が設置されています。

O 一畑中道十膳山コース(徒歩片道約70分)

O-1 芋の谷 ある日お坊さんが、村人に芋をわけてくれるようにお願いしましたが、喰えない芋であると断りました。村人がいざ煮えた芋を食べようとすると硬くて食べられなくなっていました。その芋を井戸端に投げ捨てると、たちまち青い芽が出てきたそうです。驚いて、和尚さんにわけを話すと、弘法大師さんに違いないといわれ、お詫びにお堂を建立し、お祀りしたとの民話が残っています。現在も、芋は芽を出し、隣にはお大師さんのお祀りしてあります。

O-2 一町地藏 松江から大社への道と一畑薬師への道が西長江で別れます。起点のどおり形の石の道標で正面に「右一畑中道」「左大社」と刻まれています。これより一畑薬師へ88丁(約9.6km)一畑中道のはじまりです。参拝者の為に1丁(60間109m)毎に町(丁)石が置かれ87基が一町地藏さんとして親しまれています。

O-3 一本松の狐地藏 昔、上根尾地区の一本松に、人に化ける古狐がいて村人をだまし喜んでいました。近くの狐師が退治しようと、娘に化けた狐を逆にだまし捕らえましたが二度と悪さをしないと命乞いをしたのが逃がしてやりました。すると狐はこの礼に一夜で田植えをし、また良く実りました。狐師はこの恩返しに感心し、峠に「狐地藏」を祀ったと伝えられています。

O-4 十膳山 大野町殿山と出雲市野郷町(高山)の境界にあり。標高は193.6mです。出雲國風土記には「この山には林がなく、頂上付近には、周囲89mもある沢があり鶯鶯(おしどり)という美しい水鳥が住んでいた」と記されています。近年、地元の人々が登山道を造り休憩所を設置されています。山頂からの眺めは宍道湖、斐川平野、遙か中国山地から石見の山並みまで展望できます。

P えびすだいでこく大橋コース(徒歩一周約120分)

P-1 えびすだいでこく大橋 魚瀬地区住民積年の夢であった県道の改良が平成25年3月に完了し、非常に便利になりました。その道路の一部として、延長166mの橋梁が「えびすだいでこく大橋」です。橋名板は「北島建孝園造様」の揮毫によるものです。白亜の橋梁と青い海のコントラストがとてもきれいです。

P-2 秋葉山(秋葉神社) 県道大野魚瀬線のおノ神峠から魚瀬方面に約300m下った左側に登山道があります。山頂には秋葉神社が祀ってあります。登山道途中の本陰からは美しい魚瀬の海が見えます。

P-3 海辺の女島 出雲國風土記にも記載されている女島です。漁業の神様として三島神社があります。ご祭神は事代主命(蛭子命)であります。近年までは島でありましたが現在は陸続きになっています。夕方になると船の航行が女島の陰から見え、女島の美しい松と共に夕日に一段と映え絶景です。

ここからくじらの化石がでてきました。



本宮山山頂より、宍道湖を望む。